

来週の「売り物」記事はこれ



2015年2月20日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

「犬、猫殺処分をなくしたい」

骨を砕き、生かす…

女子農高生「命の花」を紡ぐ

22日（日）



空前的なペットブームが続いています。国内の家庭で飼われている犬、猫は2000万匹をはるかに超えています。一方で、深刻なのが飼い主のモラルの低下です。2013年に全国の保健所が引き取った犬や猫は約17万6000匹にのぼり、約2割は飼い主の持ち込みだといいます。結果は……殺処分です。犬や猫の骨は事業廃棄物、「ゴミ」として捨てられています。そうした現状に心を痛めた青森県内の女高生が立ち上がりました。殺処分された犬や猫の骨を砕き、それを肥料として土に混ぜ、花を育てようというプロジェクトです。名付けて「命の花プロジェクト」。生徒たちの声かけで始まった取り組みですが、レンガで骨を砕く行為自体、彼女らの心に大きな負担としてのしかかりました。そして、投げかけられる無遠慮な声と、好奇の目……。彼女らの奮闘を描きます。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

NHKは政府の見解を代弁する機関なのか！

靱井会長の「問題発言」を改めて考える

夕刊2面特集ワイド 23日（月）



NHKの靱井勝人会長＝写真＝の発言がまたまた問題化しています。先日の記者会見で戦後70年にあたって従軍慰安婦問題を番組で取り上げるかについて問われ、「政府の正式なスタンスがまだ見えないので、放送するのが妥当かどうかは慎重に考えないといけない」と述べたからです。NHKは政府のいいなりに放送するかのような発言で、権力をチェックする役割を担う報道機関への信頼を根底から覆しかねません。「公共放送」のトップを務める靱井氏の発言について、識者とともに改めて考えます。

「女の気持ちをたずねて」

おんなのしんぶん  23日（月）

福岡県柳川市の山田アサ子さんの夫は、息子2人が幼い頃に家出。山田さんは、夫の両親とともに子供を育てました。16年後、その夫が「病で余命わずか」という知らせが届きます。息子を連れて会いに行った山田さんに、夫は号泣し土下座して謝ったといいます。夫の死亡後、山田さんは毎月欠かさず墓参りを続けています。息子とともに。



食・ひな祭りを彩る

くらしナビ面 21日（土）



ひな人形を飾り、3月3日の桃の節句を心待ちにするころですね。ひな祭りの彩り華やかな食卓には「ちらしずし」が欠かせません。料理研究家の藤野嘉子さんに、ボリューム感があり、見た目も華やかな、ちらしずしの作り方を教わります。具には子どもも食べやすく、満足感のあるひき肉を使っています。

孫育てのツボ～戦中・戦後を伝える くらしナビ面 23 日（月）

戦後 70 年を迎え、今の子どもたちに、リアルな戦争体験や戦後まもなくのころの話をしてくれる大人は少なくなっています。今こそ祖父母世代の出番。直接、戦争にいった経験がなくても、記憶に残る戦時中や戦後の混乱期の暮らしぶりを、自らの言葉で孫たちに伝えませんか？ 特に当時の子どもたちの話は現実味をもって受け止められるようです。



創刊 5 万号記念

ノーベル賞物理学賞の中村修二教授招き特別講演会

小惑星探査機「はやぶさ」の川口淳一郎教授も登壇

22 日（日）、特集は 28 日（土）



昨年のノーベル物理学賞を受賞した中村修二・米カリフォルニア大教授を招いた特別講演会「不可能を可能に～青色発光ダイオードから生まれる未来～」(主催・毎日新聞社)が本紙創刊記念日の 21 日、東京都内で開催されます。その後、小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトを成功に導いた川口淳一郎・宇宙航空研究開発機構教授(シニアフェロー)らと困難を克服するまでの経緯などについて語り合います。先行きの見えない現代社会への貴重なメッセージになりそうです。詳しい内容は 28 日朝刊で掲載します。

震災社会面企画「岐路」

東日本大震災から 3 月 11 日で、4 年となります。津波の被害があった沿岸部では、被災者向けの復興住宅の整備が進み、仮設住宅が集約されるなど、多くの避難者がどこに「定住の場」を求めるのか大きな選択を迫られています。福島では、原発事故の汚染廃棄物の中間貯蔵施設＝写真＝への搬入が 3 月に始まります。その建設予定地をめぐるっては、代々続く土地を手放さざるを得ないなどの住民はさまざまな苦勞に直面しています。



被災地で暮らす人々や、故郷を離れた地で避難生活続ける人々がそれぞれの「岐路」に立ち、どのような決意でいるか、苦悩を抱いているか。記者が時間をかけて取材した被災者の思いを、五つの現場から報告します。